

水稲直播情報

令和6年4月18日
庄内総合支庁農業技術普及課
(TEL 0235-64-2103)

今年は催芽に時間がかかっています(移植栽培)

- ⇒ 種子を埋没させない表面播種を徹底!
- ⇒ 出芽を促すために間断灌水を徹底!

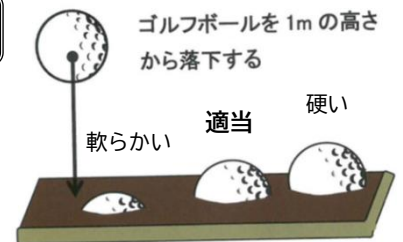
1 適期播種

- 播種適期は4月29日頃～5月5日頃(日平均気温が12℃以上になる時期)です。
- 播種が遅れると生育・出穂も遅れ、登熟条件(日照、温度)が不利になります。

2 表面播種に適した土壤の硬さに調整～苗立ち確保の最重要ポイント～

- 適正な苗立数※を確保するためには、「表面播種」にすることが大切です。土が軟らかすぎると種子が埋没して苗立数が低下し、硬すぎると入水後に種子が流動しやすくなります。
- 代かき後に2～4日間落水状態を保ち、「表面播種」ができる土壤の硬さに調整します。 **ポイント**
硬さの目安は、ゴルフボールを1mの高さから落として、約半分が埋まる程度です(下図)。

※適正な苗立数:m²当たり100本程度(条1m当たり30本程度)



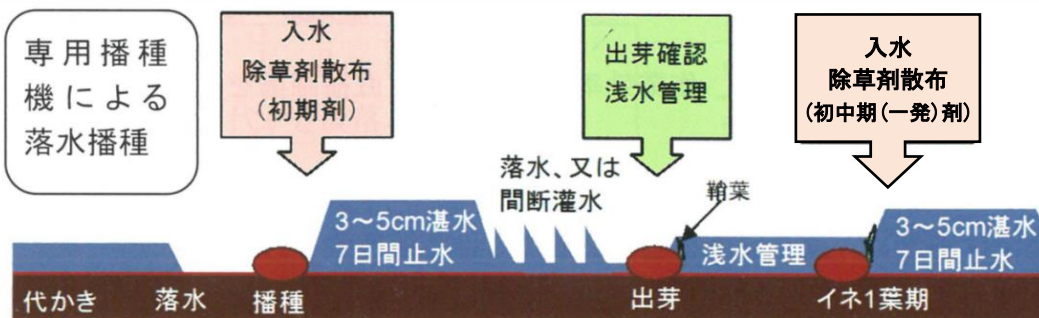
3 播種量

播種量は乾籾で5kg/10aを基本とします。
(毎年苗立が安定している圃場では4.5kg/10a～)

4 水管理 (初期剤+一発処理除草剤の場合)

- 播種同時または直後に初期除草剤を散布し、少なくとも7日間は止水し、田面を露出させないように注意します(吸水と保温も兼ねる)。
- その後は自然落水し、水深のごく浅い間断灌水を行って種子に酸素を供給し、出芽を促進します。晴天日の日中は、落水状態を保つと地温が高まり、出芽に勢いがつきます。 **ポイント**
- 8割程度の出芽を確認したら浅水管理に切り替えます。
- イネ1葉期に到達したら湛水し、一発処理除草剤を散布します。ワキ予防のため、除草剤散布前に水交換を行います。

<鉄コーティング直播栽培 播種後の管理>



イネ1葉期に達するのは5月中旬。一発処理除草剤散布は遅れずに。

STOP ! 農作業事故 < 春季農作業事故防止運動 4/1~6/10 >
～ 農薬は適正に使用しましょう ～